くらがの

発行所　倉賀野神社
〒370-1201
群馬県高崎市倉賀野町 1263 番地
電　話　027-346-2158
ＦＡＸ　027-346-2184
例祭（秋季大祭）　10 月 19 日
春季大祭　　4 月 19 日
公式ホームページ　www.chinju.info/

令和の御代のはじまりを言祝ぎ奉りて

倉賀野神社　宮司　髙木直明

天皇陛下の御即位を国民こぞって言祝ぎ奉るとともに、令和の御代の幕開けにあたり、氏子崇敬者の皆様の御多幸を心よりお祈り申し上げます。

去る五月一日、皇太子殿下には第一二六代の天皇の御位にお即きになりました。倉賀野神社では、奉祝記念大祭として五月二十五日・二十六日の両日に「天明神輿神幸祭」を斎行いたしました。氏子地域を広く巡幸する神幸祭は、このたび六年ぶりのことで、あわせて七ヶ所の御旅所を巡る一大慶祝行事となりました。（本紙にその様子を紹介させていただきました。）

＊　＊　＊

来る十月二十二日には、天皇陛下が高御座にのぼられて即位のことを国の内外に宣明される「即位礼正殿の儀」が挙行されます。

そして十一月十四日・十五日には「大嘗祭・大嘗宮の儀」が厳粛に執り行われます。天皇陛下が宮中で御田植・稲刈りを大切になさるように、稲づくりは私たちの祖先が高天原の皇祖天照大神から授けられた大切な営みであります。毎年の新嘗祭は、その年の新穀を天神地祇にお供えしたあとに天皇御親らも召し上がる儀式といいます。この儀式を、天皇のご即位にともない、御一代に一度限りの皇位継承儀礼として行うのが大嘗祭です。

皇居東御苑に、悠紀殿・主基殿などの大嘗宮の建物を現在建築中と報道されています。やがてそこで始まる儀式は、わたくしたちにとって縁遠く漠としたものと感じるかもしれませんが、大嘗祭へのお供え物などを見てみますと、じつは類のない規模の、身近な国民的行事とわかるのです。

古来、「亀卜」により全国から悠紀田、主基田が選定され（今回はそれぞれ栃木県、京都府内）、その稲が大嘗祭に献上されることはよく知られますが、明治以降は、全国各都道府県からも米と粟、特産品等があたらしく供えられるようになりました。それらは大嘗宮の悠紀殿・主基殿のそれぞれの南庭に机を置いて、その上に供えられることから「庭積机代物」と呼ばれます。

このたびの群馬県からの「庭積机代物」はまだ公表されていませんが、平成のときには米、粟のほかに「コンニャクイモ・リンゴ・干シイタケ」であったといいます。こうして広く国民が真心こめて収穫した農水産物が大嘗祭に献上されることは、全国の地域の人びとの大きな誇りであり喜びとなりましょう。

＊　＊　＊

本神社では十月十一日に境内神饌田の抜穂祭（稲刈り）を行い、十九日には秋の例大祭を迎えます。即位礼、大嘗祭をはじめとする諸儀が、古式に則りうるわしく斎行されますことをこころより祈念申し上げることであります。

御大礼奉祝記念　高崎市指定重要文化財　御本殿屋根替修復事業

御本殿は幕末の元治二年（一八六五）に建替えられたもので、数度の修繕を重ね、昭和十二年にいまの銅板の屋根に葺替えられました。以来八十余年にわたり雨風をよく凌いできましたが、近年は経年劣化や大雪による損傷等が生じる事態となりました。

御本殿の建物は『御普請仕様書』等の造営文書類と併せて、平成四年に高崎市の重要文化財に指定されています。

令和の新しい御代に、県下有数の建築文化財保護のため氏子崇敬者の皆様の格別の御奉賛をお願い申し上げる次第であります。

■鎮守日誌■

▽6月　中学生の職場体験学習　倉賀野中二年生の生徒が3日間、神社で体験学習をした。写真は「笏」を手に持ち神職の作法を学んでいるところ。

作法に取り組む生徒たち

以下は生徒の感想文から。「ぼくは今回の体験で礼儀を正すことの大切さを学ぶことができました。」「一番印象に残っていることは、大祓詞を読んだことです。」「琴を弾いたり食前食後の神様に感謝を表す儀式では、他の職場体験では体験できないようなことだったので、とても楽しく活動することができました。」

▽6月　神饌田の御田植祭　総代会と倉賀野中学校生徒有志が奉仕して、恒例の御田植祭をおこなった。秋には収穫の稲穂を神前にたくさんお供えできますように。

▽6月　夏越大祓　大祓は日頃知らず知らずのうちに身についた罪穢れや災いのもとを祓い除ける神事で、6月末日と12月大晦日の二度、半年ごとにおこなわれている。今回は令和の御代に初めての大祓で、氏子崇敬者等が参道に設けられた「茅輪」をくぐり、参拝した。社殿の中では、一同で「大祓詞」を奉唱した。

茅輪くぐり

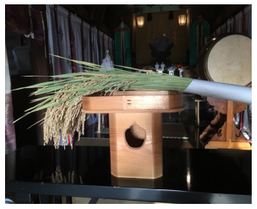
▽8月　よい子の七夕祭り　旧暦に近い月遅れで8月7日に毎年行われる。境内ではすいか割りやヨーヨー釣りに歓声が上がった。七夕に子供たちの学芸の上達を祈願することは、織姫の裁縫が上手になりますようにという願いに重なる。また、「神衣」といって、そうして織られた着物は、古来神様への大切な献上物であった。

▽8月　「群馬近世寺社総合調査」の一行が来社　県教委文化財保護課によるもので、今後全県にわたり近世の社寺建築の調査が行われるという。この日群馬建築士会の調査士7人が市文化財保護課の係と共に来社、神社の由来や幕末期の造営文書類について宮司から案内を受けた後、社殿の構造や彫刻等について実地調査を行った。

▽9月　神社で町内会の防災訓練　上町第二町内会主催による防災訓練が神社で実施された。約50人が集まり、境内では「煙体験ハウス」に入って火災時における煙の怖さを疑似体験（写真）。また消火器の扱い方の訓練や、AEDの救命講習が行われた。

「煙体験ハウス」

■編集後記■　▽社報のデータ入稿締め切りは10月9日。新穀の写真を入れたいが、境内の抜穂祭は11日なので間に合わない。▽ちょうどそこへ吉岡町の崇敬者様から稲穂のお供えをいただいた（写真）。毎年献納にお見えになっている。今年もうるわしく実った稲穂を、ここに紹介させていただくことに。▽近隣の農家の方々からも、稲刈りのあと神社に届ける旨の温かいお声掛けをいただいた。▽天照大神の「斎庭の稲穂の神勅」はいまに受け継がれていると、胸を熱くした。（直）



5月25日の夜。境内では、神様に神輿へお遷りいただく「みたまうつしの儀」がおこなわれた。浄闇の静寂に、ときおり天空からアオバズクの声。明朝はいよいよ天明神輿の発輿となる。

奉祝 天皇陛下御即位
倉賀野神社 天明神輿 神幸祭

令和元年5月25日・26日に執り行われました。

＊天明神輿＝倉賀野宿脇本陣須賀家七代庄兵衛の妻、お圓さんが天明5年（一七八五）、飯玉宮（現在の倉賀野神社）に奉納したもの。工匠は大阪北御堂前の宮屋九郎兵衛。

（平成二十五年以来、六年ぶりに神幸祭執行）

5月26日の早朝。はじめにお神輿をトラックに載せて遠方の町内へ「車上渡御」に出発。そして午前9時半にお神輿が神社に帰着し、いよいよ「行列渡御」の出発となった。輿丁（担ぎ手）は倉賀野町の各町内会を代表する28名。諸役を担う列員等を含め総勢一二〇名が東参道に整列し、発輿の神事をおこなった。神輿は、雅楽の音に導かれてしずしずと進む。

神社の境内では上町の山車囃子が笛太鼓の音も高らかに神幸祭を奉祝した（下）。

夕刻となり、行列は無事倉賀野神社に帰着した。神輿の後に続いて鳥居をくぐる列員の人びと（上）。神様が神幸（渡御）を終えて神社に帰ることを「還幸」という。即位の御大礼を奉祝する神幸祭はこうしてめでたく還幸となり、氏子地域の人々の上にも普く御神恩をいただく大祭となった。

倉賀野宿の脇本陣に、五色の旗がたなびく。

仲町の倉賀野公民館前で御旅所祭を斎行。倉賀野小３年生児童が神前に豊栄舞を奉奏した（左）。御旅所を出発する行列（下）。

仲町山車倉前では、行列を出迎えるお囃子が中山道往還に響き渡った。

南町の御旅所で到着を今か今かと待ち望む太鼓の子供たち（下）。御旅所祭では宮司や町内関係者等が神輿の前に玉串をささげて拝礼した（上）。

田屋町の御旅所で倉賀野小５・６年生の豊栄舞（上）。八幡さまの伝来の大神輿は、ふだんは参道沿いの「井戸八幡」と呼ばれる覆屋の中に安置されている。このたび 14 年ぶりに表に出て、天明神輿と並べ境内に飾られ、注目を集めた（右）。

猿田彦神は日本神話の「天孫降臨」のときに道案内をつとめた神で、神幸祭でも先導という重要な役目を負う。子供たちが怖がるかと思いきや、「サルタヒコ、おっきい！」と、人気。

下町お諏訪さまの御旅所では「志組」が揃いの山車囃子を奉奏（左）。御旅所祭の神事を修め、昼食休憩のあと、一行は復路の巡幸へと向かった（下）。

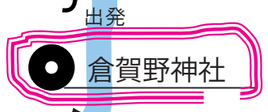
途中、下町から花笠に草鞋姿の童女二人が錫杖、提灯を手にお出迎え。諏訪神社の御旅所まで道案内した。

上正六御旅所（公民館前）

桜木御旅所（公民館前）

倉賀野東御旅所（栄養亭 様）

車上渡御の各御旅所。5月26日午前8時にお神輿をトラックに奉戴して倉賀野神社を出発。上正六、桜木、倉賀野東の順に巡幸し、お神輿の前に町内の大勢の人びとが参拝した。



《読者の皆様へ》倉賀野神社を出発してから、図の矢印の道順に、どうぞご覧になってください。